

運転の楽しさを支える、先進の安全装備。



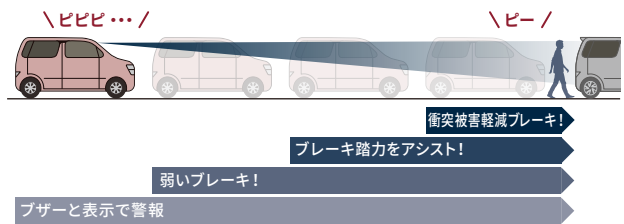
デュアルカメラブレーキサポート

運転支援機能 ※1※2※3※4※5

前方の車両や歩行者を検知し、衝突のおそれがあれば音や表示によって警告します。衝突の可能性が高まると弱いブレーキを作動。その間ブレーキペダルを踏むとブレーキ踏力をアシスト。さらに衝突の可能性が高まるとブレーキを制御し、衝突の回避または衝突時の被害軽減を図ります。

<標準装備>

■デュアルカメラブレーキサポート作動イメージ図



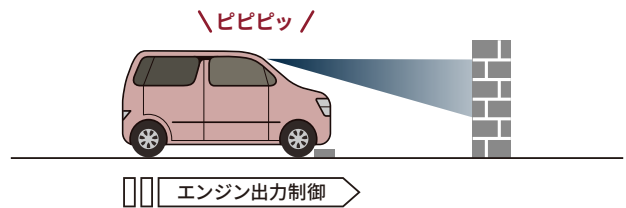
*衝突被害軽減ブレーキ機能作動時は強いブレーキがかかりますので、走行前にすべての乗員が適切にシートベルトを着用していることを確認してください。
*衝突被害軽減ブレーキ機能作動後は、クリープ現象により前進しますので、必ずブレーキペダルを踏んでください。

誤発進抑制機能[前進時]

運転支援機能 ※1※2※3※4※6

前方に壁などがある駐車場などで、シフトをD・M・L(Sモードを含む)の位置でアクセルペダルを強く踏み込むと、最長約5秒間、エンジン出力を制御。急発進・急加速による衝突回避に貢献します。<標準装備>

■誤発進抑制機能[前進時]作動イメージ図



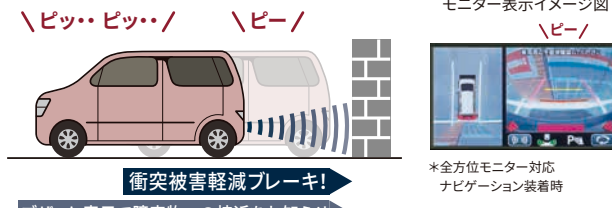
*ブレーキをかけて車両を停止させる機能はありません。

後退時ブレーキサポート

運転支援機能 ※1※2※3※4※7

リアバンパーに内蔵した4つの超音波センサーで後方の障害物との距離を測り、4段階のブザー音で接近をお知らせ。後方の障害物との衝突の可能性が高まるとブレーキを制御し、衝突の回避または衝突時の被害軽減を図ります。<標準装備>

■後退時ブレーキサポート作動イメージ図



*衝突被害軽減ブレーキ機能による車両停車後は、クリープ現象により後退しますので、必ずブレーキペダルを踏んでください。

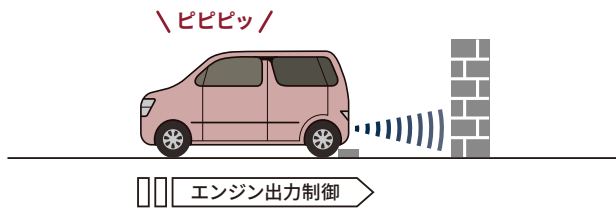
誤発進抑制機能[後退時]

運転支援機能 ※1※2※3※4※8

後方に障害物があるにも関わらずシフトをR(後退)の位置でアクセルペダルを強く踏み込むと、エンジン出力を制御して急な後退を防止。うっかり誤操作による衝突回避に貢献します。

<標準装備>

■誤発進抑制機能[後退時]作動イメージ図



アダプティブクルーズコントロール(ACC)[全車速追従機能付]

運転支援機能 ※1※4※9

ステアリングのACCスイッチを操作すると、ステレオカメラで先行車との距離を測定。設定した車間距離を適切に保ちながら加速・減速、さらに停止まで追従します。高速道路での長距離運転や渋滞走行時の発進・停止を頻繁に繰り返す状況などで、運転操作の負担を軽減します。<標準装備>

*追従走行は、約40km/h未満でも作動し、停止まで継続します。*追従走行中の先行車が停止すると自車も停止し、その後約2秒でブレーキは解除されます。停止を続ける場合は、必ずブレーキペダルを踏んでください。
*道路状況および天候状況等によっては、ご使用にできない場合があります。また、ACCの制御には限界があります。装置を過信せず、常に安全運転に努めてください。

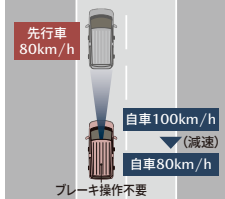
例:100km/hに設定した場合

■定速走行



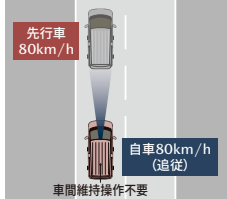
先行車がない場合は、ドライバーが設定した速度をキープ。

■減速走行



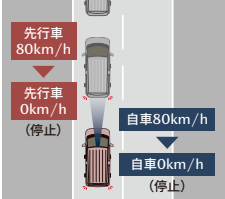
先行車の車速にあわせて減速して走行。

■追従走行



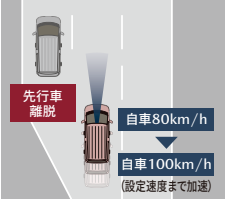
先行車の車速にあわせて走行。

■追従走行/停止(全車速に対応)




先行車が停止した場合、自車も停止。約2秒間は停止を保持。

■加速走行



先行車がいなくなると、設定した速度まで加速して定速走行。


*イラストは高速道路や自動車専用道路での走行例です。



全車安全運転サポート車(サポカーS・ワイド)に該当

経済産業省や国土交通省などが普及啓発を推進している、高齢者を含む運転者を先進安全技术で支援し交通事故防止を図る「安全運転サポート車(サポカーS・ワイド)」に該当しています。サポカーS・ワイドは、被害軽減ブレーキ(対歩行者)、ペダル踏み間違い時加速抑制装置、車線逸脱警報、先進ライトを搭載した車です。

*詳細についてはマツダオフィシャルウェブに掲載しております。右記QRよりご覧ください。

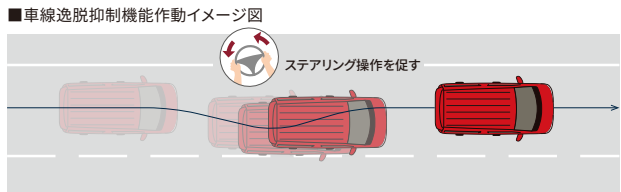


※1 状況によっては正常に作動しない場合があります。※2 対象物、天候状況、道路状況などの条件によっては、衝突を回避または被害を軽減できない場合があります。※3 ハンドル操作やアクセル操作による回避行動を行っているときは、作動しない場合があります。※4 ドライバーの安全運転を前提としたシステムであり、事故被害の軽減を目的としています。したがって、各機能には限界がありますので過信せず、安全運転を心がけてください。〈作動条件〉※5 自車速度約5km/h〜約100km/hで走行中、前方の車両や歩行者を検知し、システムが衝突の可能性があると判断した場合。作動したときの速度が約5km/h〜約50km/h(対象が歩行者の場合は約5km/h〜約30km/h)であれば、衝突を回避できる場合があります。周囲の環境や対象物の動きなどによっては、警報のみでブレーキが作動しない場合があります。また、警報と同時に衝突被害軽減ブレーキが作動する場合があります。

〈作動条件〉※6 シフトがD・M・L(Sモード含む)の位置で停車または徐行中(約10km/h以下)、前方約4m以内に障害物を検知している状態で、アクセルペダルを強く踏み込んだ場合。※7 約10km/h以下で後退中、後方約3m以内に障害物を検知し、システムが「このままでは衝突が避けられない」と判断した場合。※8 停車または約10km/h以下で後退中、後方約3m以内に障害物を検知している状態で、アクセルペダルを強く踏み込んだ場合。※9 先行車を検知せず約40km/h以上、または先行車を検知して約1km/h以上で走行中にシステムをONにした場合。
●その他、重要な注意事項がございますので、営業スタッフにおたずねいただくか取扱書をご確認ください。

車線逸脱抑制機能 運転支援機能 ※1※2※3

機能をONの状態で行走中、カメラが左右の区画線を検知。車線逸脱の可能性が高いとシステムが判断した場合に、ドライバーに車線逸脱防止方向へのステアリング操作を促し、車両を車線の内側に戻すように支援をします。＜標準装備＞



※車線逸脱抑制機能はドライバーがステアリング操作をしている間のみ作動します。
※ドライバーの緊急操作時は、ドライバーの操舵を妨げません。
※ウインカーが出ている間は、車線変更の意図があると判断し、車線逸脱抑制機能を一旦停止します。

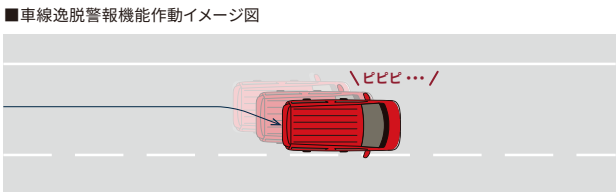
先行車発進お知らせ機能 ※1※2※6

停車中、前のクルマが発進して約4m以上離れても停車し続けた場合、ブザー音やメーター内の表示によって、ドライバーに先行車の発進をお知らせします。＜標準装備＞



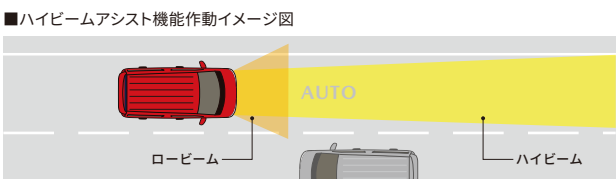
車線逸脱警報機能 ※1※2※4

走行中に左右の区画線を検知して進路を予測。前方不注意などで車線をはみ出しそうになると、ブザー音などの警報によってドライバーに注意を促します。＜標準装備＞



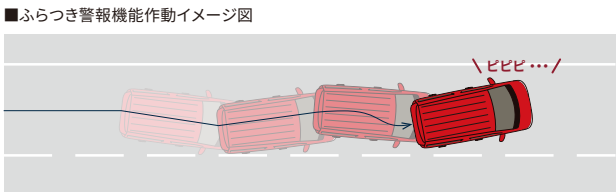
ハイビームアシスト機能 ※1※2※7

ヘッドランプをハイビームにして走行中、前方に対向車や先行車がいたり、明るい場所を走行すると自動でロービームに。対向車や先行車がいなくなったり、周囲が暗くなると自動でハイビームに戻ります。＜標準装備＞



ふらつき警報機能 ※1※2※5

走行中に左右の区画線を検知して、自車の走行パターンを計測。車両が蛇行するなど、システムが「ふらつき」と判断した場合、ブザー音などの警報によってドライバーに注意を促します。＜標準装備＞

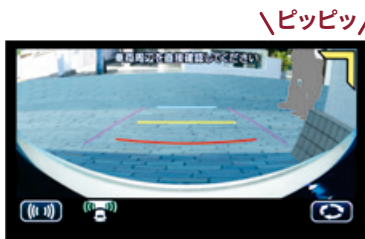


乗る人すべてに、きめ細やかな安全への備えを。

全方位モニター用カメラ(フロント/サイド左右/バック) ※8※9※10※11

「全方位モニター用カメラ装着車」には、クルマの前後左右に4つのカメラを設置。全方位モニター対応ナビゲーション(ショッポプション)を装着すれば、クルマを真上から見たような映像などを映し出す「全方位モニター」に。見通しの悪い場所で人などが近づいてくるとお知らせする「左右確認サポート機能」も前後に装備しています。

＜対象グレードはTechnical Informationをご確認ください＞



■前方/後方ワイド映像イメージ図

■さまざまなアングルで視界をサポート

「トップ映像」や、「助手席側のサイド映像」など視点を切り替えて表示。

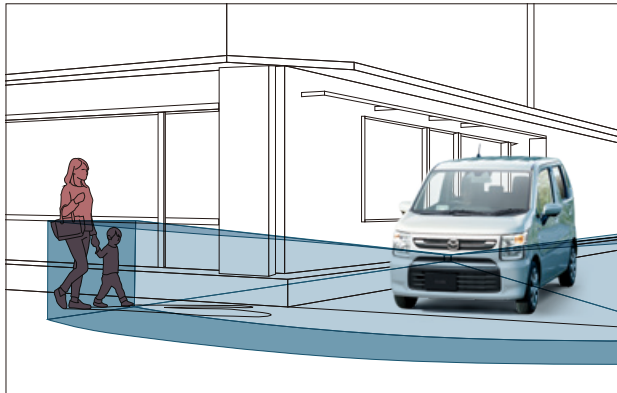


■トップ映像+前方/後方映像イメージ図



■サイド映像+前方/後方映像イメージ図

■全方位モニター作動イメージ図



※前方/後方映像はシフトをR(後退)に入れたと後方映像、その他のシフト位置では前方映像(シフトPは360°映像)となります。
※後方映像はルームミラーやドアミラーで見える場合と同じように、左右が反転して映し出されます。
※全方位モニター用カメラ装着車は、全方位モニター対応ナビゲーションの装着を前提とした仕様です。工場出荷時はナビゲーションスペースにカバーが装着されています。
※全方位モニター対応ナビゲーションの詳細はアクセサリカタログをご覧ください。
※字光式ナンバープレートを装着した場合、全方位モニターの映像が一部遮られることがあります。

■3Dビュー

目視しにくいエリアの周辺確認をサポート。



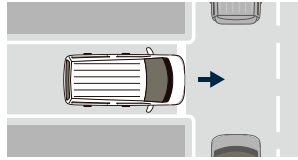
■室外視点イメージ図



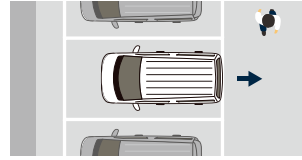
■室内視点イメージ図

■左右確認サポート機能

自車に近づく人や物をブザーと画面表示でお知らせ。



■前方左右確認サポート機能イメージ図



■後方左右確認サポート機能イメージ図

※1 状況によっては正常に作動しない場合があります。※2 ドライバーの安全運転を前提としたシステムであり、事故被害の軽減を目的としています。したがって、各機能には限界がありますので過信せず、安全運転を心がけてください。＜作動条件＞※3 機能をONの状態では約65km/h以上で走行中、車線の左右区画線を検知し、進路を予測。システムが車線を逸脱すると判断した場合。※4 約60km/h以上で走行中、車線の左右区画線を検知し、進路を予測。システムが車線をはみ出すと判断した場合。※5 約60km/h以上で走行中、車線の左右区画線を検知し、自車の走行パターンを計測。システムが「ふらつき」と判断した場合。※6 シフトがD・N・M・L(Sモード含む)の位置でブレーキ操作をして停車中、先行車が発進して約4m以上離れた場合。※7 約30km/h以上で走行中、ライトスイッチレバーのつまみを「AUTO」の位置にし、ヘッドランプが点灯した状態でレバーを車の前方向に押し、ハイビームにしているとき。●その他、重要な注意事項がございますので、営業スタッフにおたずねいただくか取扱書をご確認ください。

※8 全方位モニターはドライバーの駐車等を補助するものであり、あらゆる状況で自車の周辺環境を映し出すものではありません。またカメラの位置より上にある物体は映像で見ることができません。そのほかバンパーによる死角や、トップ映像にはカメラ映像間のズレによる死角があります。※9 システムの能力には限りがありますので、ドライバーは天候や路面状況にあわせた運転、周辺の車両・歩行者の確認、的確な運転操作など安全運転に努めてください。車両の操作をするときはこの機能に頼らず、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。※10 左右確認サポート機能は、すべての移動物を検知できるわけではありません。また、静止しているものは検知できません。＜作動条件＞※11 左右確認サポート機能：自車が発進前/後退前に停止しているとき、または微低速で前進/後退しているとき。●その他、重要な注意事項がございますので、営業スタッフにおたずねいただくか取扱書をご確認ください。

ヘッドアップディスプレイ

運転席前方のダッシュボード上に、車速、シフト位置や警告などの情報を表示。ドライバーの視線上に必要な情報を表示できるので、運転中にメーターパネルへの視線移動や焦点を調節することが少なくなり、安全運転に役立ちます。

<対象グレードはTechnical Informationをご確認ください>



エマージェンシーストップシグナル

約55km/h以上で走行中に急ブレーキを検知するとハザードランプが自動で高速点滅し、後続車に注意を促します。<標準装備>

ライト自動消灯システム

ライトスイッチが「AUTO」の位置でなくても、エンジンを切って運転席のドアを開けると自動でヘッドランプなどを消灯し、バッテリー上がりを予防します。<標準装備>

4輪アンチロック・ブレーキ・システム(4W-ABS)&電子制御制動力配分システム(EBD)、ブレーキアシスト

滑りやすい路面での急ブレーキ時には、4W-ABSが作動。タイヤのロックを防ぎ、車体を安定させて、ハンドル操作で障害物を回避できるようにサポートします。さらに、ブレーキ踏力を補助するブレーキアシストや最適な制動力を前後に自動配分する電子制御制動力配分システム(EBD)を装備。さらなる安全性に貢献しています。<標準装備>

*4W-ABS&EBDはあくまでもドライバーのブレーキ操作を補助するシステムです。4W-ABS&EBD非装着車と同様に、コーナー等の手前では十分な減速が必要です。安全運転を心がけてください。

ダイナミック・スタビリティ・コントロールシステム[横滑り防止機構](DSC)&トラクション・コントロール・システム(TCS)

さまざまなセンサーによって走りを監視し、必要に応じてエンジンとブレーキをコンピューター制御。カーブなどでのタイヤのスリップや横滑り、急ブレーキ時のタイヤロックなどを抑え、車両の安定走行に貢献します。<標準装備>

*エンジントルク低減の度合いやブレーキをかける車輪とその強さは走行状況により変化します。DSC&TCSはあくまでも安定走行を補助する装置です。タイヤと路面間のグリップの限界を超えてスリップや横滑りを起こした場合はDSC&TCSが作動したとしても、その効果は期待できません。

ヒルホールドコントロール

坂道での発進時には、クルマが後ろに下がらないように、一時的にブレーキが作動(最長約2秒間)します。<標準装備>

SRSエアバッグシステム 運転席&助手席、カーテン&フロントサイド<標準装備>

*SRS:Supplemental Restraint System(補助拘束装置) 運転席&助手席エアバッグは横方向や後方からの衝撃、横転および転覆した場合や正面からの衝撃が小さい場合には作動しません。カーテン&フロントサイドエアバッグは横方向からの衝撃を感知した場合、感知した側が作動しますが、正面や後方からの衝突時や衝撃が小さい場合には作動しません。すべてのSRSエアバッグはシートベルトをしたうえでの補助拘束装置です。シートベルトは必ず装着してください。

■エアバッグ膨張時イメージ図



リアシート i-Size/ISOFIX※1対応チャイルドシート固定ロアアンカレッジ&トップテザーアンカレッジ

お子さまを安心して乗せられるよう、i-Size/ISOFIX対応のチャイルドシート固定ロアアンカレッジに加え、チャイルドシート上端を固定するトップテザーアンカレッジを標準装備しています。<標準装備>

※1 国際標準化機構(ISO)が定めたチャイルドシート固定装置に関する規格。
*i-Size/ISOFIX対応チャイルドシートの本車両への適合性について、詳しくは車両付属の取扱書をお読みいただくか、営業スタッフにおたずねください。
*チャイルドシートを取り付ける際は、車両およびチャイルドシート付属の取扱書をお読みください。

運転席/助手席シートベルトウォーニング※2

シートベルトを装着せずに発進すると、警告音で装着を促します。

<標準装備>

※2 助手席に荷物などを載せると、荷物の重さや形状によってはシートベルトウォーニングが作動して、警告音とメーター内の警告ランプが点灯する場合があります。

快適なドライブをサポートする多彩な機能。

WLTC※3 燃料消費率(国土交通省審査値)※3※4

HYBRID XS/HYBRID XG

2WD 25.2km/L ■市街地モード※4 23.0km/L ■郊外モード※4 26.5km/L ■高速道路モード※4 25.4km/L

4WD 24.2km/L ■市街地モード※4 22.3km/L ■郊外モード※4 25.1km/L ■高速道路モード※4 24.5km/L

HYBRID XT

2WD 22.5km/L ■市街地モード※4 19.5km/L ■郊外モード※4 24.2km/L ■高速道路モード※4 22.9km/L

4WD 20.9km/L ■市街地モード※4 18.4km/L ■郊外モード※4 22.3km/L ■高速道路モード※4 21.3km/L

※3 燃料消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用時等)に応じて燃料消費率は異なります。

※4 WLTCモードは、市街地、郊外、高速道路の各走行モードを平均的な使用時間配分で構成した国際的な走行モードです。市街地モードは、信号や渋滞等の影響を受ける比較的低速な走行を想定、郊外モードは、信号や渋滞等の影響をあまり受けない走行を想定、高速道路モードは、高速道路等での走行を想定しています。

ステータスインフォメーションランプ

燃費効率がよい運転状態になると、メーターパネル内の照明色がブルーからグリーンに変化。減速エネルギー回生時にはホワイトに変化します。運転状態を色で伝え、エコドライブをサポートします。<標準装備>



アイドリングストップシステム

停車前の減速時、ブレーキペダルを踏んで約10km/h以下になるとエンジンを自動停止し、低燃費に貢献します。

<標準装備>



① ステアリング シフトスイッチ

ステアリングに装備されたシフトスイッチで、シフトチェンジの爽快感を味わうことができます。<対象グレードはTechnical Informationをご確認ください>

② ステアリング オーディオリモートコントロールスイッチ

ステアリングから手を離さずに、音楽の選曲や音量の操作が可能です。<標準装備>

③ フロントワイパー 時間調整機能

ワイパーの作動する時間を細かく調整することができます。

<対象グレードはTechnical Informationをご確認ください>

エコクール

アイドリングストップ中も冷たい風を一定時間キープ。室温上昇によるエンジンの再始動を遅らせ、低燃費に貢献します。

<標準装備>